

### 情報化社会と図書館

中西 宏文

今日、社会の中では急速に情報化が進み、本人の意志に関わらず、誰もがこの情報化の波に飲み込まれていく、そのような状況に世の中は変貌を遂げているようです。また、この情報化と共に、省力化と称してそれまで人間が行ってきたことも次々と機械に置き換えられています。私自身、子供の頃から街角の自動販売機等は、あって当たり前の時代に育ったつもりが、最近の進歩には、いささか戸惑う面も多い。研究面でも、最近では電子ニュースと称するシステムで世界中の様々な情報を、コンピュータネットワークを通してすばやく入手することができ、またそれを読まないで重要な情報を見落とし余計な苦勞をすることにもなる。もっとも、そのニュースを読むだけでも大変な労力になるのは皮肉であるが。

そんなわけで、今回はこの情報化社会と図書館の関係について自分なりに思いつくことを書かせていただくことにする。現在、本学の図書館でも図書の新着や検索などを電算機を用いて処理しており、このために受ける恩恵も多々あることと思います。

図書館というと、昔から学生にとって宿題をしたりレポートを書いたりする際の情報の宝庫であると思います。以前ですと、何かの本を探したい時には、書名順あるいは著者別の検索カードを使って希望する図書を探し、分類番号から書棚に行って目的の本を調べる、といった形態が取られていました。それが、ここ十数年前からの情報化の恩恵により、あらかじめデータ

ベースとして登録しておけば、膨大なカードを繰らなくても、キーボードから書名なり著者名もしくはキーワードを入力するだけで、該当する書名の一覧が得られる、といった形に変化してきました。

さらに、最近の電子ブックに至っては、百科事典の内容まで即座にディスプレイに表示されるようになっており、それまでの労力を考えると夢のような話が現実になっています。この他にも電子出版といって、印刷の際の原板作成に活字を拾うこと無く、原稿の作成者がワープロ等で一定の書式に編集した文章であれば、そのまま写植機にかけて印刷できるし、本のイメージのまま手元のプリンターに出力することも出来るようになってきており、これからは、プロでなくても、一般の人々が容易に本の原板まで作れるような時代になろうとしているのです。

ちょっと話が飛躍しましたが、これまでの話をふまえて、将来の図書館がどのようになっているか、私なりの青写真を夢かもしませんが、描いてみたいと思います。まず、先に述べた電子ブックですが、少なくとも現在のパソコンと同程度に普及し、現在は書店で本を買うというと、紙に印刷された活字を購入することを意味しますが、その本を作成した原版となるデータをファイル(本)単位で購入でき、読者はそのファイルの入ったメディア(フロッピーディスクなりCD-ROM)を手元の電子ブックプレーヤに入れて、順次ページを繰りながら読むようになる。また、図書館においては、キーワー

ドを入力すると、関連した蔵書名が表示され、その中から希望する書名を選択すれば、その内容がディスプレイで見れ、貸し出しの場合は、メディアを装置に入れれば、内容がコピーされて、それを持ち帰って各自の電子ブックプレーヤで見る。返却は、期限がくればその内容が自動で消去されるため、図書館に行く必要はない。非常に雑な構想ではあるが、このような形態で書籍の利用ができれば、蔵書スペースも現在よりも少なく済み、本の傷みもなく、何よりも、欲しい情報の検索が瞬時に出来てしまう点が良い。

少し夢みたいなことを書いたので、現時点でどの程度図書館に関し、情報化の恩恵を受けることができるのかをまとめることで、利用の促進を促したい。まず、書籍カードの情報の電算機入力については、昭和63年度より鋭意進められており、新規に購入される館内配架図書に関してはすべて登録されており、以前の蔵書に関しても数年内には登録が完了するようである。これが完成すれば、蔵書の検索に関しては、一

応現時点での一般的な水準に到達できるであろう。また、現在学内では、図書館にある数台の検索専用端末以外でも、手元のパソコン等を学内LANに接続することで同様の検索ができ、さらに学術情報センターのデータベースにアクセスすることで、全国の大学の図書館の蔵書等の検索も出来るようになっている。こちらのシステムは、情報処理センターと図書館との連携の上に成り立っており、情報処理センター発足の賜物であろう。しかし残念なことに、学内にあるパソコンのかなりの台数がネットワークに接続されずに孤立して設置されている。是非ともこれらをネットワークに接続し高度利用して欲しいと思う。

今後とも情報化社会の中にあって情報の宝庫としての図書館の役割はますます増大することであろう。その中で、設備面と利用技術・利用頻度のバランスの取れた、発展が必要となっていくであろう。

(総合科学課程情報科学コース教官・附属図書館委員会委員長)